教員の海外派遣に関する派遣期間中の教育研究活動実績報告書
Report of Educational/Research Activities of Sending Faculty

I. 派遣教員に関する情報 / Information of Sending Faculty

派遣教員氏名 / Name of Sending Faculty	趙星銀		
本学での所属機関 /Belongings at MGU	国際学部	**所属機関での職位 / Position at MGU**	准教授
派遣先機関 / Hosting Institution	Hope College	**派遣期間 / Sending Period**	2020 年 8 月～2021 年 3 月

Ⅱ. 派遣期間中の教育研究活動実績 / Educational or Research Activities of the Sending Period

※書ききれない場合は別紙に記入の上添付ください。Should you need more space, please attach the additional sheet of paper.

教育研究活動の概略 / Brief Statement of Educational and Research Activities	別紙参照	
担当科目 / Teaching Courses **※シラバスを添付ください。 Please attach the course syllabus.**	1	科目名/Title of the Course Japanese Politics: Nationalism and Democracy 開講場所・曜時限 Class Information (Online Class, Monday, Wednesday and Friday, 12:00 pm to 12:50 pm)
	2	科目名/Title of the Course Social Movements in Postwar Japan 開講場所・曜時限 Class Information (Online Class, Tuesday and Thursday, 9:30 am - 10:50 am)
	3	科目名/Title of the Course 開講場所・曜時限 Class Information ( )
	4	科目名/Title of the Course 開講場所・曜時限 Class Information ( )
その他の教育研究活動 / Other Educational and Research Activities	別紙参照	

別紙

1. 教育研究活動の概略

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で海外渡航が困難になったため、現地に赴く代わりにオンラインで教育研究活動を行うことにした。特殊な環境の中での派遣活動となったが、パンデミック下における Hope College の対策やオンライン教育に関する様々な取り組みを見聞きすることができ、大変有益な経験となった。

実は、前年度派遣教授の中田瑞穂先生の Hope College 滞在中（2020 年 2 月）に、私も Hope のキャンパスを訪問したことがある。その時、中田先生のご厚意で、本学とご縁のある Hope の方々と面談する機会を設けてくださった。そこで Center for Global Engagement（本学の国際センターに該当する）の Dr. Deirdre Johnston、政治学科長 Dr. David Ryden の他、Hope の教員たちと実際に会って話をすることができた。おかげでその後のオンラインでのコミュニケーションも円滑に行われたと思う。中田先生と Hope の方々に改めてお礼申し上げたい。

Hope College での所属機関は政治学科（Political Science Department）、授業は Japanese Politics: Nationalism and Democracy （2020 年度秋学期の後半） と Social Movements in Postwar Japan（2021 年度春学期の前半）の二つの科目を担当した。両方とも事前にリーディングを課し、その内容を詳しく解説する講義動画をオンラインで提供し、学生からの response paper にコメントをつけてフィードバックを行う形式の授業であった。

2. 授業開始前

コロナ感染が拡大しつつあった 2020 年度春学期から、秋学期の派遣についての検討が始まった。2020 年度の派遣計画を取り消し、次年度に延期するという選択肢もあったが、私としてはどうしても今年度の派遣を諦めることができず、国際センターと緊密にコミュニケーションをとりながら方法を模索した。その結果、日本に滞在しながらオンラインで授業を提供し、もし感染状況が改善すれば現地に赴くという結論にいたった。各国の出入国に関する規制が時事刻々と変化する中、難しい相談に応じてくださった国際センターの方々、特にセンター長の森あおい先生と派遣業務担当の森下さん・榎本さんに厚くお礼申し上げたい。

2020 年度 Hope College の秋学期（Fall Semester）は、コロナ感染拡大防止のため、Thanksgiving の前に学期を終わらせるという目的で例年より前倒しになり、8 月 17 日～11 月 16 日の間に授業が行われた。授業が始まる前の 8 月 11-12 日には、Hope の新任教員らと一緒に Initium と呼ばれるオリエンテーション（Zoom で開催）に参加した。Hope の理念や研究者・教育者としての心構えといった内容はもちろん、各教員が実際に授業で使用するソフトウェアや学生の参加度を上げるためのコツなど、プラクティカルな情報まで共有することができ、大変参考になった。Initium の具体的なプログラムは下記の通りである。

Initium Pre-College Workshop
For new faculty 2020-2021

August 11 & 12, 2020 via Zoom

Remote Link was sent via email.

Time	Topic	Speaker(s)	Notes
Tuesday, August 11			
8:00 - 8:30	Informal Conversation	All	Zoom room will be open, feel free to join at a time that works for you.
8:30 - 10:00	Introductions & Goals of Initium	Gerald Griffin & Laura Pardo	Handout in Google folder
10:10 - 11:10	Engaging Students Through Writing	Mike Owens (English, Interim Director of College Writing)	
11:15 - 12:15	Scholarship - Building a Research Agenda	Jared Ortiz (Religion), Daryl Van Tongeren (Psychology), Katie Polasek (Engineering)	
12:15 - 1:00	Lunch	All	Please take some time to renourish, rehydrate, and take a walk
1:10 - 1:30	Faculty Moderator & The Big Read	Deb Van Duinen (Education)	
1:30 - 2:30	Hope's Christian Aspirations	Gerald Griffin & Laura Pardo	Handout in the google folder
2:30 - 3:00	Group Photo & Break	All	Photo will be a screenshot of our Zoom group.
3:00 - 4:00	Grading and Feedback	Brian Rider (Kinesiology), Vicki-Lynn Holmes (Mathematics/Education), Nikki Flinn (Dance)	

Wednesday, August 12			
8:00 - 10:00	The First Day: Enthuse Them or Lose Them	Fred Johnson (History)	
10:00 - 11:30	Engaging Students with Active Learning (even when teaching remotely)	Susan Brondyk (Education)	
11:30 - 1:00	Lunch	All	Please take some time to renourish, rehydrate, and take a walk
1:00 - 2:00	Teaching and Learning Motivation	Yooyeun Hwang (Education)	
2:00 - 2:30	Break		
2:30 - 4:00	Hope's Mission & Teaching	Gerald Griffin & Laura Pardo	

その後も Office of the Provost、Center for Global Engagement のスタッフから大学業務に必要な情報が次々とメールで送られた。特にオンライン授業に関しては、教育学の専門的な研究成果を踏まえて、授業形態別に詳細なガイドラインが提示されている点が印象的であった（ちなみに Hope では Synchronous Learning＝リアルタイム型/Asynchronous Learning＝オンデマンド型 という用語を使っている）。大学が提供するワークショップやサポートのリソースも豊富で、授業の具体的な設計に大変参考になった。
https://hope.edu/offices/provost/faculty-resources/online-instruction-resources/index.html

3. 授業期間中

（1）2020 年度秋学期

授業形式

2020 年度秋学期、私は後半の半期（half semester course、10 月 6 日～11 月 16 日）に開講される 2 単位の科目、Japanese Politics: Nationalism and Democracy を担当した。50 分間の授業を週 3 回（月・水・金）行うスケジュールで、秋学期の履修者は 12 名であった。アメリカと日本との時差（EDT の場合 13 時間、EST の場合 14 時間）の関係で、大半の授業はオンデマンド形式、つまり事前に録画した講義動画と授業資料をオンライン学習支援ソフト moodle

（本学の manaba に該当する）にアップロードする形で行われた。学生には毎週 response paper を書いてもらい、それにコメントする形でフィードバックを行った。

初回の授業と 3 週間目の Q and A Session、そして最終回の振り返りは zoom を通してリアルタイムで、その他の授業は moodle を通して行った。moodle は、manaba に比べると教員側で設定しなければならない項目が多く、最初は tutorial 動画を見ながら使い方を練習する必要があった。だがその分、ある程度使い慣れればユーザーの思い通りにオンライン教室を構成することができ、利点も多いと思われた。

授業内容

Hope の学生にとって、日本について詳しく学ぶ機会は少ないだろうと思い、今回の授業内容は意図的にやや長いスパンの歴史を取り上げ、明治以降の日本社会の変化がある程度把握できるように構成した。1853 年のペリー来航から 1990 年代までの歴史を 5 つの時代に区分し、時代ごとに中心となるトピックを選定して、いわゆる「近代」日本におけるナショナリズムと民主主義の展開を概観する、というのが本授業の学習目標であった。また学生のコメントから「宗教について知りたい」「経済について知りたい」などのリクエストがある場合、適宜次回の授業にその内容を盛り込むように努力した。

最終回の振り返りで、これから学びたい内容を調べた結果、ジェンダーや環境問題など、現代社会におけるグローバルなイシューに興味関心を持つ学生が多かったため、2021 年度春学期の授業では公害問題や市民参加といったテーマを中心に、戦後日本の社会運動を取り上げることにした。

（2）2021 年度春学期

授業形式

2021 年度春学期の授業日はコロナの影響で例年より 2 週間遅れ、1 月 25 日から 5 月 7 日までの日程となった。私は 1 月から 3 月 12 日までに開講される前半の 2 単位科目、Social Movements in Postwar Japan を担当した。今度は 80 分間の授業を週 2 回（火・木）行うスケジュールで、履修者は 7 名であった。授業の進め方は基本的に前年度秋学期と同様だったが、秋学期履修者のコメントを参考にしてリーディングの難易度や課題の字数などを少し調整した。

授業内容

1940 年代から 1990 年代までの日本の政治史を、社会運動との関連に焦点を当てて概観した。具体的には、占領期改革と戦後初期のサークル運動から、日米安保条約改定と反対運動、ベトナム戦争とベ平連の活動、学園紛争、住民運動をへて市民参加にいたるまでの歴史を紹介し、日本における市民論・市民社会論がどのように変わってきたか、そしてそれは現代政治にどのようなレレバンスを持つかといった問いを取り上げた。

（3）学生の反応・感想

大半の学生は非常に真面目で、授業に意欲的に取り組んでくれた。多くの学生がリーディング、response paper、教員のフィードバックへの応答などにおいて優れたパフォーマンスを見せた。対面でのコミュニケーションができない代わり、moodle 上の書き込みやメール、zoom でのオフィスアワーを積極的に活用した。授業に関する質問、レポートのテーマ設定や参考文献などについて、学生全員とすくなくとも 2、3 回はコミュニケーションをとることができた。

学生からは、日本についての理解が深まったという意見が多かった反面、前提知識が不足しており、特に学期初めの文献の理解が難しかったというコメントもあった。また文献の理解や講義内容の消化に関して、ある程度の個人差があるのは当然のことだったが、それとは別に 1 年次の学生と 3 年次の学生との実力の差は非常に大きかった。これは、Hope College の大学教育の成果が現れている証拠ではないかと思われた。

4. その他

（1）コロナ感染拡大防止対策

アメリカの全国的な感染率を考慮すると、キャンパスにおける「COVID-free」は現実的な目標ではないというのが Hope 側の認識である。したがって「もしも感染者が発生したら」ではなく、「感染者の発生は当然のこととして」、どのように感染拡大を抑制するか、をコロナ対策の目標として設定している。

Hope では在学生全員・教職員全員を対象に、Baseline Testing、Surveillance Testing、Symptomatic Testing の三つのレベルにおける検査を実施している。その他、運動選手など一部の学生は定期的な検査（Subset Testing）の対象となっている。

Baseline Testing

学期が始まる前の検査。在学生全員にテストキットが配布され、休み中、大学に復帰する 8-10 日前までに各自でテストを行うことが求められている。テスト実施・サンプル郵送については担当者が zoom を通して学生を指導する。教職員のテストはキャンパスにて実施する。

Surveillance Testing

キャンパスを 9 つのゾーンに分けて下水道のサンプルをモニタリングする。分析結果、ウイルス検出量の多いゾーンの住居者を対象に追加のテストを行う。

Symptomatic Testing
発熱、咳などの症状がある場合、大学の健康センターに報告し、テストを受ける。

結果報告
毎週月曜日に週間および学期全期間のテスト結果を大学ウェブサイトにて公開している。2021 年 3 月 15 日現在、（キャンパス到着前の検査結果を含めて）2021 年度春学期中に 5,677 件のテストを実施し、1.4%の陽性率を記録していることが報告されている。
https://hope.edu/coronavirus/covid-dashboard.html

（2）図書館の電子資料
前年度派遣報告書に書かれている通りであるが、Hope の図書館の電子資料は非常に充実している。授業で使う文献のほとんどが電子媒体の形で入手できたことはオンライン授業にとって特に大きなメリットであった。また書籍・論文の url を学生に知らせるだけで簡単に文献を共有することができ、レポートの指導にも役に立った。
さらに Hope の図書検索システムでは JSTOR、EBSCO の他、各種論文記事検索 DB が一本化されており、それぞれの DB にアクセスしなくても著者名やキーワードを入力するだけで網羅的に検索できる点が非常に便利であった。
このような電子図書館の充実化のためには、コンテンツの著作権問題や出版社とのライセンス契約など、個々の大学の努力を超えるレベルでの取り組みが必要であるが、今後の図書館の電子化を模索する際に、Hope モデルは一つの良い参照項になるのではないかと思われる。
https://hope.edu/library/

（3）その他
学期中に特定学生の出欠状況について Office of the Registrar（教務課に該当する）から問い合わせが来ることがあった。たとえば、ある授業で特定学生の欠席が続く場合、担当教員が教務課にその旨を知らせると、教務課は当該学生が履修している全科目の教員にメールを送って出欠状況を把握し、特に配慮すべきことがあれば情報を共有してくれた。学生のメンタルヘルス対策を含め、大学生活のケアのために良い仕組みではないかと思われた。またその他にも、学務全般にわたって何かあれば各部署の事務スタッフがとても迅速かつ的確に対応してくれて、スムーズに学務に臨むことができた。
様々な利点のあるオンライン派遣だったが、難点もあった。特にアメリカとの時差への適応には最後まで苦労をした。当初は派遣期間中、基本的に向こうの時間帯に合わせて生活するつもりだったが、日本で日常生活を送っている以上、無理のある計画であった。結局のところ、時には深夜 12 時過ぎに講義をしたり面談をしたりする結果となったが、それが想像以上に体力的に厳しいことであった。

またオンラインを通して、授業などの業務を遂行することはできても、たとえばHopeの人々と出会い、会話を交わすといったインフォーマルな交流はできなかった。振り返ると、色々と学んだこと、啓発されたことの多い半年間だったが、残念に思うことや反省点も少なくない。もし将来にまた機会があれば、今度は現地に足を運び、Hopeの学生・教員たちとの交流をさらに深めていきたい。